

# 鹿児島リレーマラソン参加者の大会満足度

北村尚浩\*, 坂口俊哉\*

## はじめに

近年、手軽にできるスポーツとしてランニングがブームとなっている。2007年から開催されている東京マラソンは、2013年の大会では30,000人あまりの定員に対して10倍を超える参加申込があった（東京マラソン財団, 2013/11/29）。また、2010年には奈良マラソンが、2011年には大阪マラソン、神戸マラソンが、さらに2012年には京都マラソンがそれぞれ第1回大会を開催し、いずれも1万6,000人から3万人が参加する大規模なランニングイベントとして愛好者の間に定着しつつある。このような大都市で開催されるメガイベント以外にも、日本各地で開催されるフルマラソン大会は150を越え、ランニングブームを裏付けている。さらに、参加者が数百人規模のランニングイベントを含めれば、その実態を把握することはもはや困難である。

そのような中、42.195kmをチームのメンバーでリレーして走る「リレーマラソン」の形態を取るランニングイベントも多く開催されるようになってきている。一人で走るランニングイベント違い、チームで走る安心感やチーム一体となってフルマラソンの距離を完走するという達成感から、初心者のランナーでも参加しやすいランニングイベントとして位置づけられる。そこで本研究では、鹿児島県で開催される「鹿児島リレーマラソン」を取り上げ、参加者の大会満足度を測定した。

鹿児島リレーマラソンは2012年に第1回大会が開催された、42.195kmを1チーム5人から20人がリレーして走るランニングイベントである。ホームページによれば、「初心者・初級者ランナーのための登竜門として位置づけ、さらに継続した大会開催によりランナーの活動の場を提供・促進することを目的」としている。2013年9月までに鹿児島県内各地で4回の大会が開催されている。

## 方法

### 1. 調査の概要

データの収集は、平成25年3月24日に鹿児島市桜島多目的広場で開催された「第2回鹿児島リレーマラソン大会」の参加者を対象として、所定の質問紙による配票調査によって行った。ゴール後の参加者に対して、調査員がチームごとに質問紙を直接配布、回収し257名から回答を得た。

調査内容は、個人的属性（4項目）、日常のスポーツ実施状況（9項目）、ランニングイベント参加回数（1項目）、リレーマラソンに関する項目（17項目）の計31項目で構成されている。

### 2. 分析方法

全体の傾向を把握するため、単純集計を行った。リレーマラソンに関する項目のうち大会満足度を尋ねた12項目については、それぞれ「1. 満足した」から「4. 満足しなかった」までの4段階のリッカートタイプ尺度を用いて測定しており、4段階評定順に4から1の得点を与え間隔尺度を構成するものと仮定して平均値を算出した。この大会への満足度について、性、年齢、ランニングイベント参加回数による比較を行った。

## 結果

### 1. サンプルの属性

サンプルの属性を表1に示している。性別では男性175名（75.8%）に対して女性が56名（24.2%）と男性が多いサンプルとなった。また、年代別では20歳代が最も多く（46.8%）、次いで30歳代（26.8%）、40歳代（17.7%）と年代が上がるにつれて少なく、平均年齢は33歳であった。婚姻状況では独身者が57.1%、既婚者が41.6%であった。鹿児島県内の居住者が87%を占めており、職業では会社員（39.0%）、公務員（20.3%）、学生（9.5%）の順であった。

\* 生涯スポーツ実践センター

表1. サンプルの属性

		n	%
性別	男性	175	75.8
	女性	56	24.2
年代	20歳代	108	46.8
	30歳代	62	26.8
	40歳代	41	17.7
	50歳代	17	7.4
	60歳代	3	1.3
	平均年齢	33.04±9.89	
	婚姻	独身	132
既婚		96	41.6
N.A.		3	1.3
居住地	鹿児島県	201	87
	鹿児島県外	16	6.9
	N.A.	14	6.1
職業	会社員	90	39
	公務員	47	20.3
	学生	22	9.5
	医療関係	18	7.8
	パート・無職	8	3.5
	その他	23	10
	N.A.	23	10

## 2. ランニング実施状況

サンプルのランニング実施状況を示したのが表2である。1週間あたりの実施頻度では週1回未満と回答した者が69名(29.9%)と約三割を占め、週1回程度の実施者40名(17.3%)と合わせるとおよそ半数に達している。一方、週4回程度以上実施している者も

表2. ランニング実施状況

	n	%
ランニング実施頻度(週あたり)		
週1回未満	69	29.9
週1回程度	40	17.3
週2回程度	30	13.0
週3回程度	20	8.7
週4回程度以上	50	21.6
N.A.	22	9.5
ランニング実施時間(1回あたり)		
30分未満	37	16.0
30分～1時間	65	28.1
1時間以上	83	35.9
N.A.	46	19.9
ランニングイベント参加回数		
初めて	32	13.9
2～4回	80	34.6
5～9回	47	20.3
10回以上	58	25.1
N.A.	14	6.1

21.6%みられた。1回あたりの実施時間も1時間未満の者がおよそ半数を占めている。一方でランニングイベントへの参加回数は4回以下の者と5回以上の者が半々であり、10回以上参加している者も25%あまりみられた。これらのことからサンプルのランニング・プロフィールを推察すると、走ることが好きで日常からトレーニングを積んでいるというよりは、イベントに参加することを志向してそのために楽しみ程度にランニングをしているような者が多いとイメージできよう。

## 3. リレーマラソン

### 1) 参加状況(表3)

今回が2回目の開催となった鹿児島リレーマラソンであるが、サンプルのうち初参加者が179名(77.5%)を占めており、第1回大会に引き続いて参加した者は44名(19.0%)にとどまった。参加クラスでは「ドシロートクラス」が最も多く半数を占め(51.9%)、チーム内に女性2名以上を含む「ミックスクラス」が45.5%、チーム内に1家族以上を含む「ファミリークラス」は2.6%であった。多くが職場や学校の仲間チームを編成しており(73.6%)、それ以外の仲間によるチーム編成は4分の1に満たない。

次回以降のリレーマラソン大会への参加意向について尋ねたところ、「参加する」「たぶん参加する」と答えた者が93.5%にのぼり、再来志向の強さがうかがえる(表4)。そして、再参加の意向とその理由についてクロスした結果が表5である。再びリレーマラソンに「参加する」と答えた者の83.9%、「たぶん参加する」と答えた者の66.3%が大会に満足したことをその

表3. 参加状況

参加回数	n	%
初参加	179	77.5
2回目	44	19
N.A.	8	3.5
参加クラス		
ドシロート	120	51.9
ミックス	105	45.5
ファミリー	6	2.6
チーム編成		
職場・学校	170	73.6
サークル	47	20.3
家族	2	0.9
その他	5	2.2
N.A.	7	3

表4. 今後の参加意向

	n	%
参加する	100	43.3
多分参加する	116	50.2
多分参加しない	11	4.8
参加しない	2	0.9
N.A.	2	0.9

理由に挙げており、大会への満足度がリピーターを増やす上で大きな要因であることがうかがえる。

## 2) 大会満足度

大会満足度に関する12項目について数値化し、サンプル全体、男女それぞれの平均値を求めた結果を表6に示している。「全体の満足度」を含む11項目で3.0以上の値を示しており、この大会への参加者の満足度の高い様子が窺える。中でも最も高い値を示したのは「ボランティアの対応」(3.59)で、大会運営を支える

人的資源に対して高い評価が得られている様子が見える。次に高い値を示したのは「開催時期」(3.56)であったが、本大会が開催された3月下旬は鹿児島県では桜がほころび始める頃であり、気候的に恵まれた時期であることが反映されていると考えられよう。また3番目に高い値を示したのは「開催場所」(3.53)に対する満足度である。鹿児島リレーマラソンは、県下各地で開催されるようになっているが、本大会が開催されたのは鹿児島県のシンボルとも言える雄大な桜島の麓であり、その姿をレース中も眺めることができる。また鹿児島市内からのアクセスも良く、その結果が「利便性」(3.34)に対する満足度にも現れている。

一方、相対的な満足度が最も低かったのは「コース」(2.90)に対してである。一般道を使って開催されるランニングイベントと違い、本大会は周回コースで行われていた。道路使用許可の取得などの必要がない反面、リレーとはいえコース周辺の景色に変化は見られ

表5. 再参加意向とその理由

	参加する		多分参加する		多分参加しない		参加しない	
	n	%	n	%	n	%	n	%
大会に満足	78	83.9%	69	66.3%	2	20.0%	1	100.0%
大会に不満足	0	0.0%	1	1.0%	1	10.0%	0	0.0%
別の大会へチャレンジ	3	3.2%	12	11.5%	1	10.0%	0	0.0%
連続出場を目指す	4	4.3%	5	4.8%	0	0.0%	0	0.0%
結果に満足	4	4.3%	8	7.7%	3	30.0%	0	0.0%
結果に不満足	2	2.2%	7	6.7%	0	0.0%	0	0.0%
マラソンはもう結構	1	1.1%	0	0.0%	3	30.0%	0	0.0%
その他	1	1.1%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%

表6. 大会満足度

	全体		男性		女性		t
	mean	S.D.	mean	S.D.	mean	S.D.	
ボランティアの対応	3.59	0.63	3.56	0.65	3.68	0.54	-1.20
時期	3.56	0.56	3.53	0.59	3.66	0.48	-1.55
開催場所	3.53	0.57	3.51	0.58	3.57	0.57	-0.73
給水・ドリンクサービス	3.39	0.70	3.35	0.72	3.50	0.63	-1.54
参加賞	3.37	0.69	3.34	0.68	3.48	0.69	-1.31
利便性	3.34	0.67	3.31	0.69	3.45	0.63	-1.53
トイレの場所と数	3.34	0.67	3.29	0.67	3.50	0.66	2.08*
広報	3.31	0.64	3.28	0.64	3.39	0.63	-0.88
他の参加者との交流	3.21	0.72	3.19	0.73	3.31	0.69	-0.90
参加料	3.04	0.82	3.04	0.82	3.04	0.84	0.27
コース	2.90	0.90	2.86	0.91	3.02	0.88	-1.09
全体の満足度	3.54	0.54	3.53	0.55	3.59	0.53	-0.79

\*p&lt;.05

ず単調で面白みに欠けることは否めないだろう。また、「参加費」(3.04)に対する満足度も相対的に低い値を示した。本大会の参加費はチームの人数ごとに設定されており、5人で15000円、6人で18000円というよう、最大20人のチームで60000円まで設定されている。一人あたり3000円の参加費となり、鹿児島県内で開催されている他のランニングイベントと比較しても特段高く設定されているわけではない。しかしながら、リレーであるため、一人が走る距離はチームの人数によって異なるものの他のイベントに比べて短くなる傾向にある。このことが、ランニングイベント慣れした参加者から低く評価されたのではないだろうか。

次に、満足度に対する男女間の差を見てみる。11項目中有意味な差が認められたのは「トイレの場所と数」で、男性が3.29、女性が3.50という値を示し男性に比べて女性の方が高い満足度を示す結果となった。従来のランニングイベントの満足度を扱った報告ではトイレの設置状況に対する満足度は女性の方が低い結果を示すものが多くみられたが、本大会では逆の結果を示した。これは、一人で42.195kmを走るフルマラソンとは違ってリレー形式であるため、トイレに行く自由度が比較的高く利用者が集中することがなく混雑が回避されることや、公園にもともと設置されているトイレの数が十分であり、仮設トイレに比べて清潔感が高いということが影響していると思われる。その他の項目でも全体的に男性よりも女性の満足度の方が高く、本大会は女性に優しい大会として捉えることができよう。

続いて、サンプルを年齢によって40歳未満と40歳以上とに分け、それぞれの満足度を比較した。有意な差が見られた項目は「広報」のみで、40歳未満が3.36、40歳以上が3.16という値を示し、40歳以上の参加者で満足度が低いことが明らかになった。本大会の広報については、インターネットやラジオ、ポスター等を中心に展開されたが、参加申し込みは大会ホームページから行うようになっており、広報メディアとしてインターネットの比重が多い。このことはコンピュータなどの電子機器を使えるかどうかという点が、イベントに参加することへのバリアとなり得ることを示している。参加者のターゲットを広く設定するのであれば、今後の広報戦略を検討する余地が残されているといえよう。他の項目も全体的に40歳未満の参加者の満足度の方が高く、全体の満足度も40歳未満の参加者の方が有意に高い値を示しており、イベントを今後どのよう

表7. 年齢と大会満足度

	40歳代未満		40歳代以上		t
	mean	S.D.	mean	S.D.	
広報	3.36	0.61	3.16	0.70	2.17*
開催場所	3.51	0.59	3.57	0.53	-0.60
利便性	3.35	0.68	3.33	0.66	0.12
時期	3.58	0.56	3.50	0.57	0.94
参加料	3.05	0.82	3.00	0.83	0.43
参加賞	3.39	0.68	3.32	0.70	0.72
コース	2.89	0.90	2.92	0.92	-0.16
トイレの場所と数	3.36	0.68	3.28	0.67	0.77
給水・ドリンクサービス	3.41	0.71	3.32	0.68	0.81
ボランティアの対応	3.63	0.62	3.49	0.63	1.44
他の参加者との交流	3.25	0.72	3.10	0.74	1.40
全体の満足度	3.59	0.54	3.42	0.53	2.14*

に展開していくのかによって、戦略的な対応を検討する必要があるだろう。

さらに、ランニングイベントへの参加回数と満足度との関連をみた結果が表7である。サンプルをランニングイベントへの参加回数によって「初めて」「2～4回」「5～9回」「10回以上」の4グループに分け、各項目の平均値を比較した。有意な差が見られたのは「開催時期」と「参加賞」の2つの項目であった( $p<.05$ )。「開催時期」については初参加者のグループが最も高い値を示し(3.81)、暑くもなく寒くもない3月下旬の開催がランニングイベント初参加者には好評だった様子が窺える。また「参加賞」でも初参加者のグループが最も高い満足度を示しているが(3.66)、ここで注目すべきは最も低い値(3.13)を示した「5～9回」のグループである。参加回数が多くなるに連れて徐々に満足度が下がり「10回以上」のグループでは再び上がっていることから、参加賞のような走ること以外の付加的な価値を期待するグループと、走ること自体に勝ちを見出すグループの境界線が存在することが示唆される。このことは、「コース」や「給水・ドリンクサービス」のようなレースに直接影響する項目で10回以上の参加者の満足度が最も低い様子からも、窺い知ることができる。

表8. ランニングイベント参加回数と満足度

	初めてa		2~4回b		5~9回c		10回以上d		F	LSD*
	mean	S.D.	mean	S.D.	mean	S.D.	mean	S.D.		
広報	3.41	0.61	3.36	0.63	3.24	0.57	3.20	0.72	1.08	
開催場所	3.72	0.52	3.48	0.60	3.48	0.59	3.53	0.54	1.50	
利便性	3.52	0.57	3.27	0.71	3.37	0.61	3.29	0.73	1.13	
時期	3.81	0.47	3.52	0.53	3.50	0.55	3.50	0.63	2.76*	a>b,c,d
参加料	3.28	0.73	3.13	0.77	2.87	0.78	2.89	0.88	2.61	
参加賞	3.66	0.55	3.39	0.59	3.13	0.78	3.29	0.77	4.01*	a>c,d b>c
コース	3.22	0.79	2.86	0.90	2.76	0.90	2.80	0.94	1.94	
トイレの場所と数	3.53	0.62	3.29	0.66	3.20	0.75	3.36	0.64	1.71	
給水・ドリンクサービス	3.63	0.55	3.39	0.71	3.31	0.73	3.26	0.74	2.03	
ボランティアの対応	3.69	0.64	3.59	0.57	3.58	0.72	3.52	0.66	0.50	
他の参加者との交流	3.31	0.74	3.15	0.75	3.17	0.71	3.26	0.67	0.53	
全体の満足度	3.81	0.47	3.51	0.53	3.54	0.50	3.40	0.59	4.12**	a>b,c,d

\*p&lt;.05 \*\*p&lt;.01

## 結語

本研究では、鹿児島県鹿児島市で開催された第2回鹿児島リレーマラソンの参加者を対象として、大会満足度について検討してきた。主な結果は次のとおりである。

- 1) サンプルのランニング実施状況から、ヘビーユーザー的なランニング愛好者の参加も見られるが、イベントに楽しみを志向している者の参加が多い。
- 2) 大会への満足度は全体的に高く、中でもボランティアの対応や開催時期、開催場所の利便性などが高く評価されている。一方で、コースや参加費に対する満足度が相対的に低かった。
- 3) 大会満足度の男女比較では、トイレの設置場所や数に対する満足度で有意な差が見られ、女性の方が男性よりも満足度が高かった。
- 4) 年代による比較では広報に対する満足度で40歳代未満と40歳代以上との間に有意な差が見られ、40歳代以上の方で満足度が低かった。
- 5) ランニングイベントへの参加回数による比較では、開催時期と参加賞に対する満足度で有意な差が見られ、いずれも初参加者の満足度が高いことが明らかになった。

以上のように、鹿児島リレーマラソンに対する満足度について性別、年代別、ランニングイベントへの参加頻度によってその違いを検証してきた。本大会は初心者ターゲットとしたランニングイベントとして位置づけられているが、参加者のレベルは様々である。今後の大会運営において、ターゲットを絞った運営を

志向するのかそれとも幅広い参加者をターゲットとした大会運営とするのか、参加者からの更なるデータの蓄積をもって大会運営にフィードバックしていく必要性が感じられる。

いずれにせよ鹿児島リレーマラソンは開催地を固定せず鹿児島県内各地で開催されており、地域の活性化とともに生涯スポーツとしてのランニング・ジョギングを広く普及するためのプロモーション・ツールとしても期待が持たれるイベントと言えよう。

## 参考文献

- 北村尚浩, 川西正志, 波多野義郎, 柳敏晴, 萩裕美子, 前田博子, 野川春夫 (2000) 生涯スポーツイベント参加者の大会満足度: 菜の花マラソン参加者のスポーツライフスタイルによる比較. 学術研究紀要 23, 25-31.
- 東京マラソン財団 (2013) 東京マラソン2014公式サイト. <http://www.tokyo42195.org/2014/> (2013年12月4日参照)
- スポーツリンクアンドシェア (2013) 鹿児島リレーマラソン公式サイト. <http://www.class-match.net/run/first> (2013年12月4日参照)